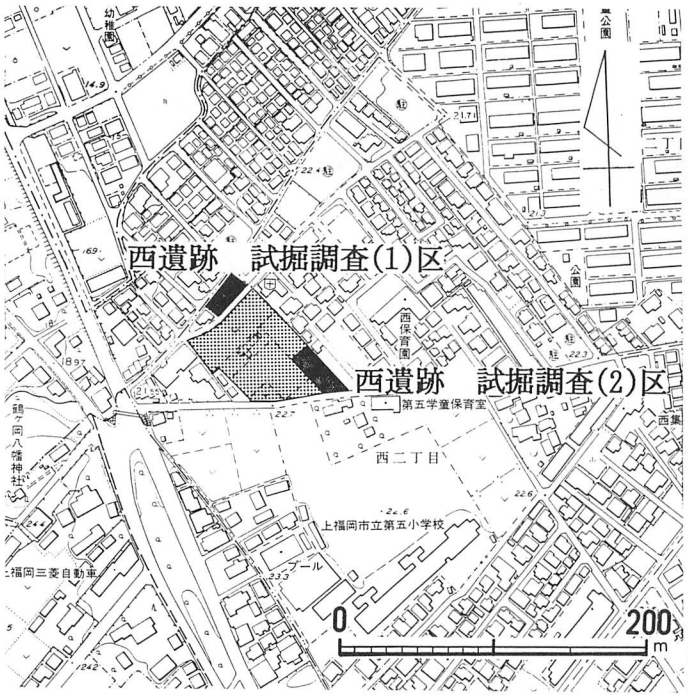
	(遺跡名・調査の種類)	(所在地)	(調査面積)	(原　因)	(調査期間)
1	仲３丁目　試掘調査	仲３－１－１	831	共同住宅建設	4/6 ～4/14
2	松山遺跡　試掘調査(1)	松山２－６－22，23	567	駐車場敷設	4/17～4/24
3	西遺跡　試掘調査(1)	西２－1845	200	共同住宅建設	4/24,25
4	上福岡貝塚　試掘調査	福岡２－1500－８	737	工場棟増設	5/2
5	松山遺跡　試掘調査(2)	松山２－４－７	571	駐車場敷設	5/6～5/11
6	松山遺跡第12次調査	松山２－３－11	393	個人住宅建設	5/12～5/20
7	松山遺跡第13次調査	築地３－２－18	234	個人住宅建設	5/18～5/30
8	松山遺跡第14次調査	松山２－５－17	432	個人住宅建設	5/21～5/30
9	松山遺跡　試掘調査(3)	松山２－３－31，13	871.9	宅地造成	6/12～6/18
10	松山遺跡　試掘調査(4)	築地１－３－17	998	共同住宅建設	6/3～6/11
11	北野遺跡　試掘調査(1)	大原２－2079－１	617	駐車場敷設	6/19～6/22
12	滝遺跡　試掘調査	滝１－２－14	400	倉庫建設	7/6～7/8
13	北野遺跡　試掘調査(2)	北野２－1809－１	138	個人住宅建設	8/6
14	福岡新田遺跡　試掘調査	中福岡３６２	998	共同住宅建設	7/17～7/22
15	駒林遺跡　試掘調査	駒林字南原３４１	987.6	共同住宅建設	9/16～9/18
16	長宮遺跡第18次調査	長宮２－５－３	914.8	共同住宅建設	10/6～12/2
17	松山遺跡　試掘調査(5)	松山１－４－32	78.4	共同住宅建設	10/30
18	富士見台横穴墓　試掘調査	新田２－１－25	1112.5	共同住宅建設	11/18～12/1
19	西遺跡　試掘調査(2)	西２－2068－２	559.2	共同住宅建設	12/3～12/9
20	上野台３丁目　試掘調査	上野台３－1504－2,1108－2	1915.2	図書館建設	1/12,13
21	長宮遺跡第19次調査	長宮１－２－21，35	467	駐車場敷設	12/17～1/22
22	川崎遺跡　試掘調査	川崎字山向９－５	168	店舗付住宅建設	2/18,19



第１図　西遺跡調査区位置図（１／5000）

西遺跡　試堀調査(1)作業風景（北より）

II　西遺跡の試堀調査

西遺跡は，北側に川越江川が西から東方向に流れ，比高差およそ５m程の崖線になっている台地上にあって縄文時代中期の土器片が散布していることで早くから知られていた。

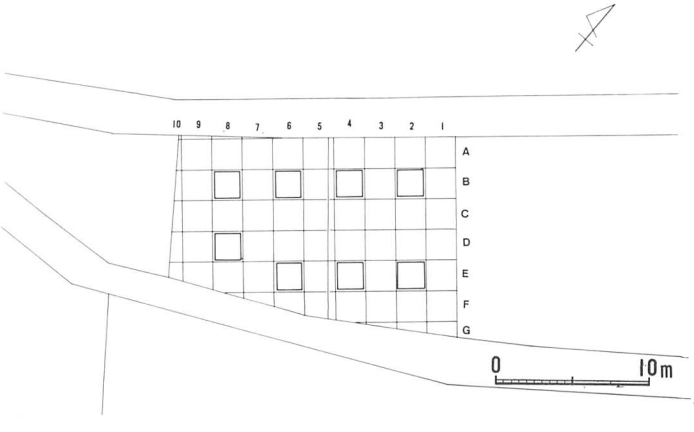
今年１月中旬からの上福岡市教育委員会による試掘調査と３月中旬から４月にかけての上福岡市遺跡調査会による本調査で縄文時代中期の前半を中心とした時期の住居跡が18基，土坑60基前後，集石17基遺構が確認された（西遺跡１次調査）。今回の試掘調査区は，２箇所とも１次調査区の隣接地であって１次調査で確認された集落跡がどこまでつづくのか確認するために行なった。

川崎遺跡　試掘調査区
川　越　市
北野遺跡　試掘調査(1)区
上福岡貝塚　試掘調査区
北野遺跡　試掘調査(2)区
滝遺跡　試掘調査区
長宮遺跡第18次調査区
長宮遺跡第19次調査区
上野台３丁目　試掘調査区
松山遺跡　試掘調査(4)区
松山遺跡第14次調査区
西遺跡　試掘調査(1)区
西遺跡第１次調査区
西遺跡　試掘調査(2)区
松山遺跡　試掘調査(2)区
松山遺跡第12次調査区
仲　試掘調査区
富士見台横穴墓　試掘調査区
松山遺跡第13次調査区
松山遺跡　試掘調査(5)区
福岡新田遺跡　試掘調査区
松山遺跡　試掘調査(1)区
松山遺跡　試掘調査(3)区
0
1000m
駒林遺跡　試掘調査区

第２図　遺跡位置図（１／20000）

●西遺跡の試掘調査（１）

当該調査区は１次調査区の道路を隔てて北側に隣接している。地目は畑地であるが，現状は，駐車場代わりに使われている雑種地である。共同住宅に転用するという開発の申請があったので事前の試掘調査が必要であると土地所有者に連絡を行なった。調査は４月24日に東側土地境界を基準にし，２ｍ間隔で北から南方向にＡ～Ｇ区，東西方向に第１～10区の方眼を設定した。Ｂ－２区より西側へ向かって１区おきに表土を除去し遺構の精査に努めながら，ローム面まで掘り下げようと試みた。Ｄ区列についても同様に１区おきに表土を掘り下げた。表土には５から10大のロームブロックが含まれており，黒味がかった粘性をもつ土，コンクリート塊や駐車場に用いられる砂利などによく似た石もまじっていた。ローム面は５cm以下のロームブロックを敷きつめたような状態になっていたり，ローム面の状況のよいところについても，遺構・遺物は確認されなかった。そのためこれ以上の調査は必要ないものと判断し，写真撮影，調査区の実測，埋め戻し，器材の撤収をおこない，すべての作業を終了したのは４月25日であった。



●西遺跡の試掘調査（２）

第３図　西遺跡　試掘調査(1)区全測図（１／500）

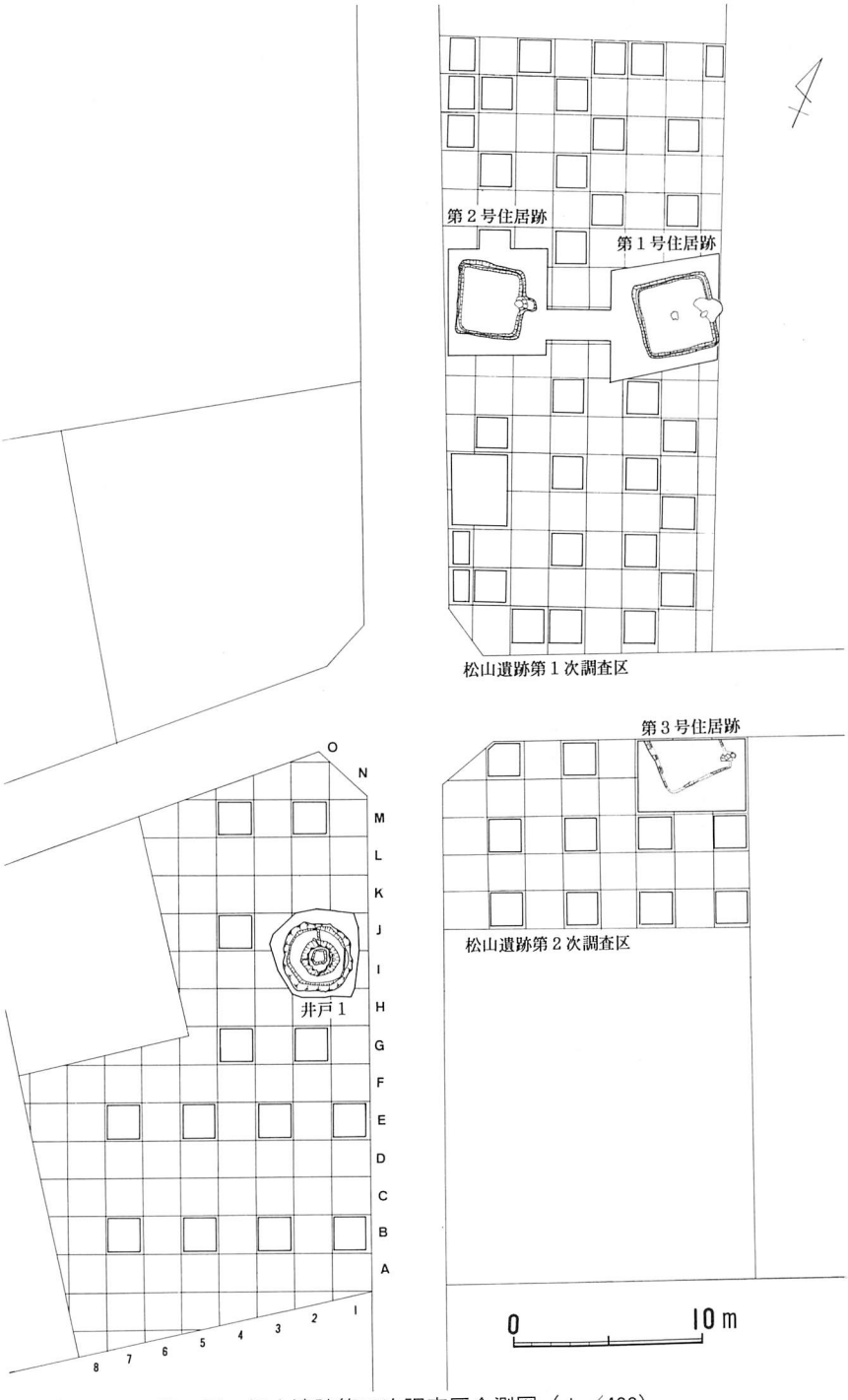
E区列，G区列の重複するグリッドの表土を除去し遺構の精査に努めながら，ローム面まで掘り下げた。この調査区の標準土層は，ローム面まで第２区列では約50cm，第８区列では約30cmを計り，表土は黒褐色の耕作土である。これは，西側のほうがやや標高が高いためと思われる。第10区列など一部攪乱され平均して５cm大程度のロームブロックが含まれている箇所もあった。第６次調査区のC，D，E区列にて大溝が確認されているため，その南側にあたる当調査区の第３，第４区列の表土の除去も一部行い，ローム面の精査に努めたが，溝の続きなどを含めて遺構は，一切確認されなかった。大溝は当調査区まで伸びていないか，或

第11図　上福岡貝塚・松山遺跡・滝遺跡・長宮遺跡調査区位置図（１／5000）

いは伸びていてもA，B区列で留まるものと考えられる。遺物は，主としてB区列より須恵器坏型土器の口縁部破片が数点出土している。４月24日，写真撮影，調査区の実測，埋め戻し，器材の撤収をおこないすべての作業を終了した。

●試掘調査（２）

当調査区は，第１，第２号住居跡の確認された第１次調査区の西側約100mの地点にあたる。調査は，５月６日に南西土地境界杭のうち西側の道路に接しているものを基準にして２m間隔で東側へ向かって第１～12区，同



第14図　松山遺跡第12次調査区全測図（１／400）

器片が確認されている。おそらく東側より攪乱によって運ばれてきたものと思われた。５月11日までに調査区の実測，埋め戻し，器材の撤収をおこないすべての作業を終了した。

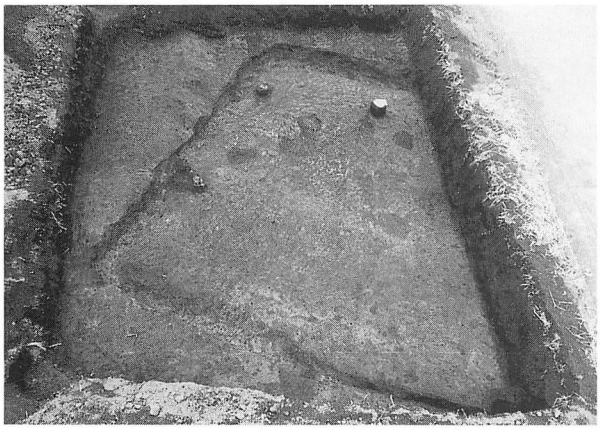
Ⅷ　松山遺跡第12次調査

今回の調査区は，第１次調査区の道路を挟んで南西隣でかつ第２次調査区の西隣にあたる。そのため遺構とそれに伴う遺物を確認するために調査を行った。５月12日に南東土地境界杭を基準にし，道路に沿った境界線を２m間隔で北側に向かってA～O区，西側へ向かって第１～８区の方眼を設定した。図のようにB，E，G，J，M区列を西側に向かって１区おきに表土を除去し，ローム面まで掘り下げた。するとJ－２区のみローム面が確認されず須恵器片が集中的に採取された。そのためJ－２区の周囲の拡張を行い，遺構のプランの確認に努めた。ローム面を精査した結果，遺構はまるみを帯びているように思えたが2.5m×3.5mの住居跡と当初は推察した。しかし覆土除去作業を行っていくうちに１m以上も掘り下げていっても覆土の性質こそ変化するが床面が確認できなかった。覆土を60cmほど除去するとややなめらかに20cmほど遺構の中心へ向かって傾斜していき，次に円柱状に深くなっていく様子から井戸であろうと考えられた。そのためこの遺構を井戸１とした。井戸１の本調査は第13次調査区の試掘調査と並行して行った。本調査にあたっては井戸が狭い遺構であるためハシゴを用いて調査を行い，また調査協力員の安全に配慮した。５月20日，井戸１を埋め戻して，器材を撤収し，すべての作業を終了した。

●井戸１

確認面での直径は約3.5m，井側部分の上面は約２m，井側部分の底面は約1.1～1.4m，井筒0.8mである。深さは，確認面から井側上面まで約60cm，井側上面から底面まで約1.7m，井筒は約70cmであって，確認面より井筒底面までは約３mである。井側と井筒は連続せず井側底面にて10cm大前後の石が敷いてあり，また，馬の頭骨が井側底面南側より出土した。時代や遺構は異なるが茨木市郡遺跡，藤井寺市国府遺跡，八尾市中田遺跡の特殊土坑，上福岡市周辺では，所沢市東ノ上遺跡第11次調査区第１号住居跡，日高市若宮遺跡第３次調査の溝跡で見つかっており，井戸に関する信仰か，あるいは漢神信仰に伴う神事に使われたものと推察される。広くは高麗郡，新座郡との関連など朝鮮渡来系の文化との関係がうかがわれる。また，井筒の木枠が残っていたので取り上

松山遺跡第12次調査作業風景（北より）

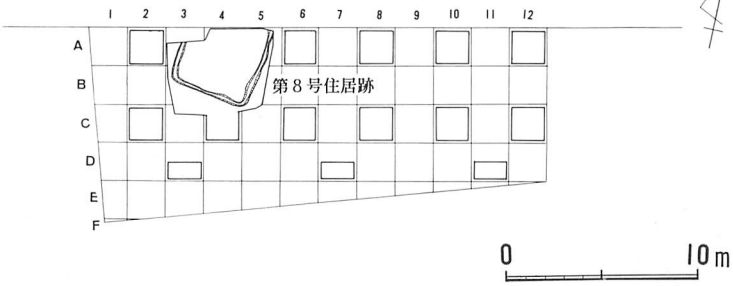


松山遺跡第13次調査　第８号住居跡全景（東より）

げようと試みたが，こわれてしまい一部のみしか取り上げられなかった。主な出土遺物は馬の頭骨のほかは須恵器のみであった。これも意図的に投げ込まれたものと思われ，井側底面より黄味ががった灰白色の須恵器の蓋，井筒覆土中より，青灰色の須恵器碗が出土し，无という同じ墨書がみられた。

IX　松山遺跡第13次調査

今回の調査区は，昨年度実施し平安時代の住居跡２軒を確認した第10次調査区の南120mの地点にあ松山遺跡第12次調査作業風景（北より）たる。そのため遺構とそれに伴う遺物を確認するために調査を行った。５月15日に西側土地境界杭を基準にし，道路に沿った境界線を２m間隔で東側に向かって第１～12区，南側へ向かってA～F区の方眼を設定した。そして１区おきに表土を除去し，遺構の精査に努めながらローム面まで掘り下げた。標準土層はローム面まで70cmを計り，灰味のある褐色土が20cmで盛り土であって乾いていたためかパサパサしていた。その下が灰味のある黒褐色土でロームブロックを含んでいた。A－６区，C－６区，C－８区などはごぼうによる作付け等の攪乱が縦横に走るなどローム面の状態は良好でない。C－８区では土師器片や須恵器片が出土したが精査に努めたにもかかわらず遺構は確認できなかった。第12区列まで試掘調査を終えてD区列の３，７，11区についても表土を除去し，遺構の精査に努めながらローム面まで掘り下げたが，何ら見だすことは出来なかった。A－４区では土師器片といくらかの須恵器片が見つかっており明褐灰色で平均して１大の焼土粒子がローム面の高さで広がっていたので最終的に拡張を行ってみることにした。拡張の結果須恵器片や土師器片の出土量が増加しローム面がとぎれて黒褐色土の部分が一定の面積をもって広がっていることが判った。住居跡であることがほぼ確実であると判断されたため，ロームの精査を行いプランを確認した。その時点で覆土が浅いため床面が一部露出していた。５月21日，住居跡の覆土除去作業が一段落すると図面をとるとともにグリッド群の埋め戻し及び第１４次調査区の試掘調査を開始し，５月30日までに住居跡を埋め戻して，器材を撤収し，すべての作業を終了した。



第15図　松山遺跡第13次調査区全測図（１／400）

●第８号住居跡

道路の下に北カマドをもっている。壁面はごぼうの作付け等による攪乱によって途中まで破壊されていたが，床面の状態は良好であった。確認面にて４m×４m以上（道路の下であるため確認不能）である。床面を剝がした結果住居は建て替えを行っており，東側周溝の内側50cmの場所に東側周溝に平行なもうひとつの周溝が確認された。はじめは３m×2.8mの住居であったと思われ，南東隅に見られた砂状の焼土塊は建て替え時に張り床に使ったものと推察された。主な遺物の出土状態は須恵器蓋の破片(No.1)，須恵器坏(No.2，No.3）が南側周溝内側の中央よりやや東側にてまとまって床面より６～11cmの高さで出土しており，須恵器坏(No.5)は南側周溝内側の中央よりやや西側に床面より８cmくらい，須恵器坏(No.6)は東側周溝内側のやや北側に住居の内側に口縁部を向けて横倒しになっていた。須恵器大甕の破片(No.4)は，住居の西側中央に床面より17cmの高さに位置していた。その他覆土中のカマドに近い部位で土師器甕の破片等の出土が見られた。そのため住居の建て替えの

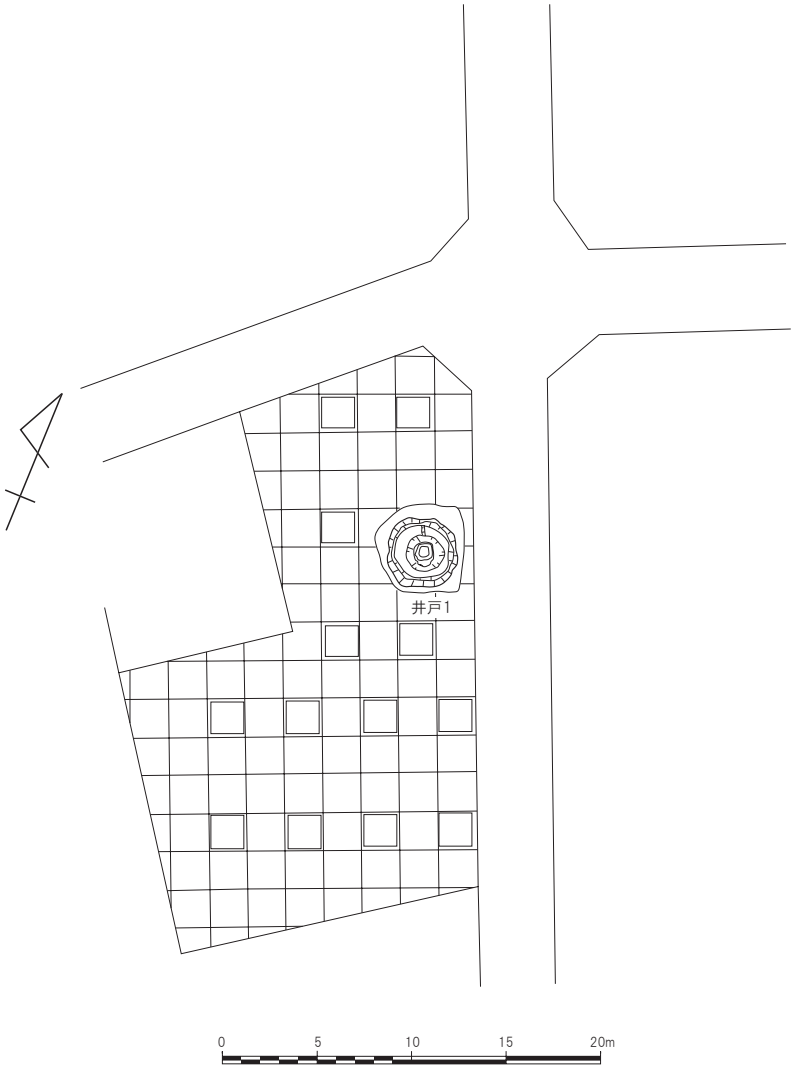
第Ⅲ部　松山遺跡第 12 次の調査

Ⅰ　調査の概要

松山遺跡第 12 次の調査地点は、遺跡範囲の西部に位置する。本地点の東側には 7 ～ 8 世紀の住居跡が確認されている。また、約 50m 北西に位置する第 55 地点では 9 世紀の住居跡とともに、掘立柱建物跡も検出している。しかしながら、本地点より西側については現時点で同時期の遺構を確認していないことから、古代において集落の縁辺であった可能性も考えられる。

調査は個人住宅建設に伴うもので、平成 4 年 5 月 12 日に旧上福岡市教育委員会で試掘調査を実施した。2m 間隔でグリッドを設定し、一区画置きに人力で表土除去及び遺構面精査を行った。その結果、調査区の北東部で井戸 1 基を検出したため、本調査へと移行した。本調査は 5 月 20 日まで行った。

本地点はこれまでに正式に報告書が刊行されておらず、『埋蔵文化財の調査（15)』に概報的に報告されているのみである。近年、松山遺跡では古代集落跡の様相が少しずつ判明してきており、解明を進めていく上で本地点の遺構は重要である。このことから本報告の必要性を感じ、今回の報告に至った。なお、図面等については散逸しているものも多いため、当時の担当者への聞き取りなども踏まえ、現段階で判明したことについての報告している。



第 114 図　松山遺跡第 12 次遺構配置図 (1/400)

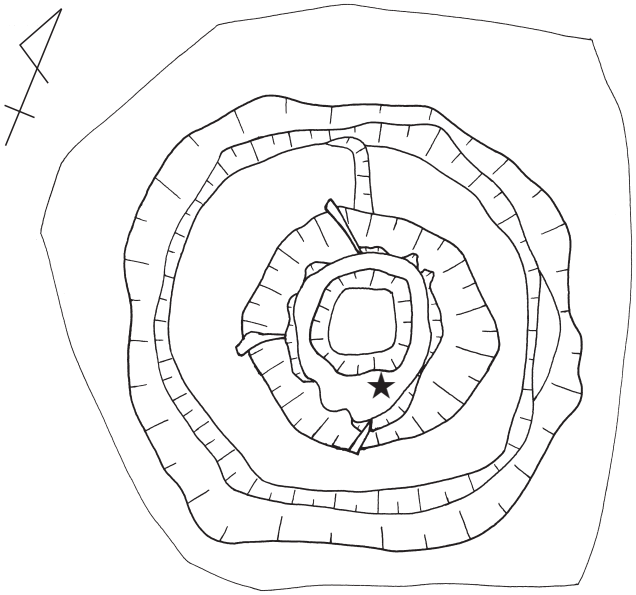
Ⅱ　遺構と遺物

現状確認できた資料と担当者の聞き取り調査から判明したことは以下のとおりである。

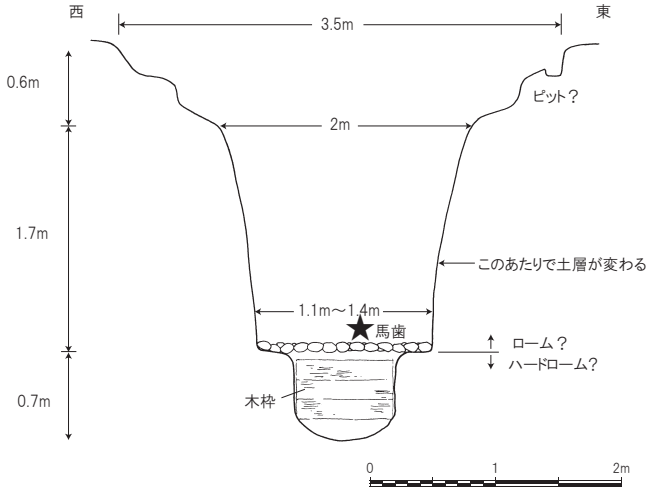
【構造】遺構の規模については『埋蔵文化財の調査（15)』に掲載されているため割愛する。最深部（井筒）は木製の板を横位に組んでいたようである。樹種等の分析結果については附編に掲載した。井戸の中央部に曲げ物等の構造物は確認されていない。土層の堆積状況は底部より①木枠下部に U 字状の掘り込み②木枠③礫敷層④須恵器集中⑤埋め土（表土）であったとされる。さらに最深部はハードローム層で、水分を多く含む。

【遺物出土状況】井戸上層に須恵器の集中層が確認された。礫層は、第 116 図で掲載した写真より厚く堆積していたという。礫層の直上からは須恵器蓋坏（119-64）が正位置で出土した。その近くから馬歯がまとまって確認された。遺存状態が悪く、他の部位については確認されていない。また須恵器碗（120-87）は礫層の下部、木枠の上部より出土した。

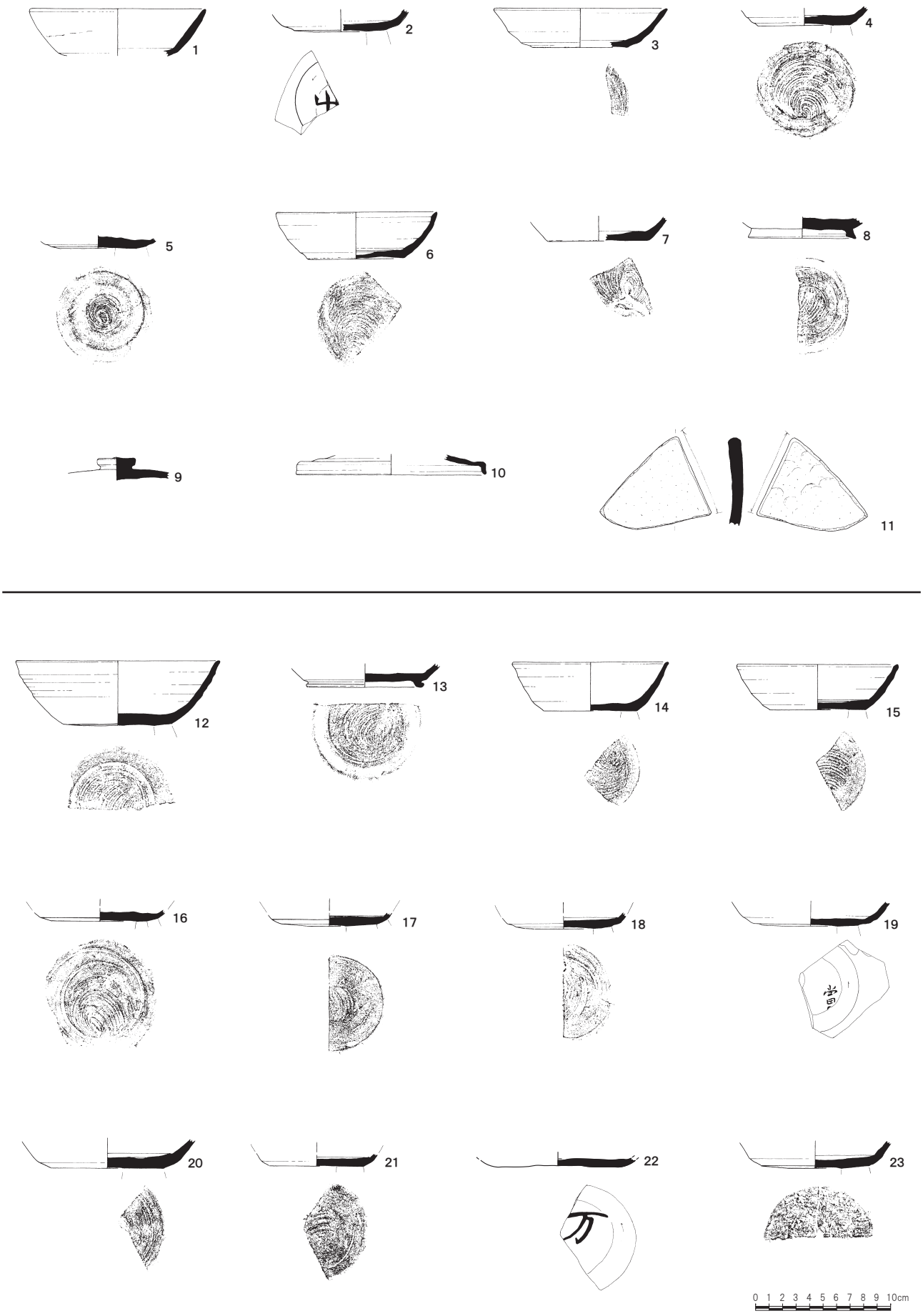
【出土遺物】出土遺物については第 117 ～ 120 図及び第 43 表に掲載した。



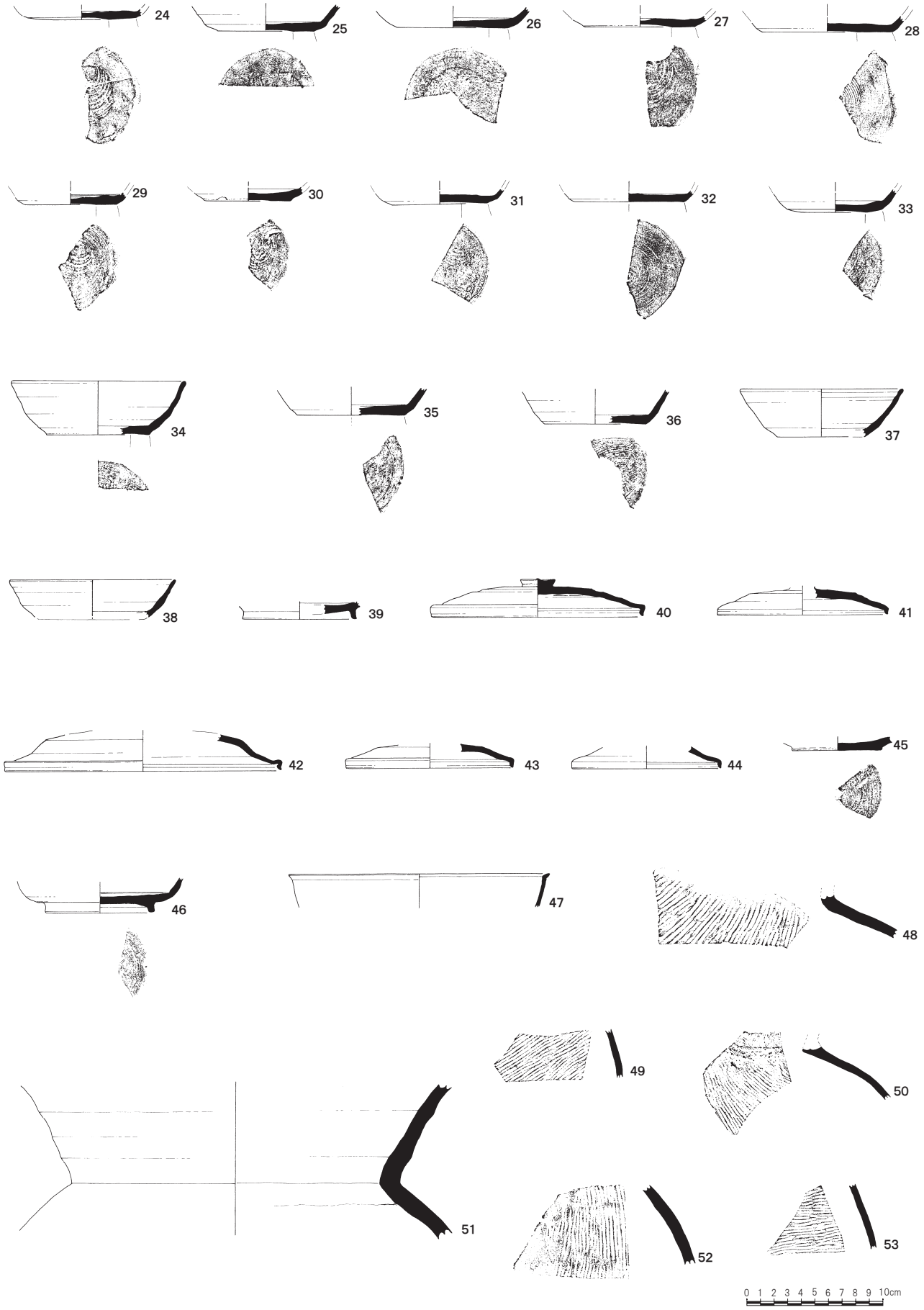
模式図 *1993.埋蔵文化財の調査(15)の報告より復元し、模式図を作成



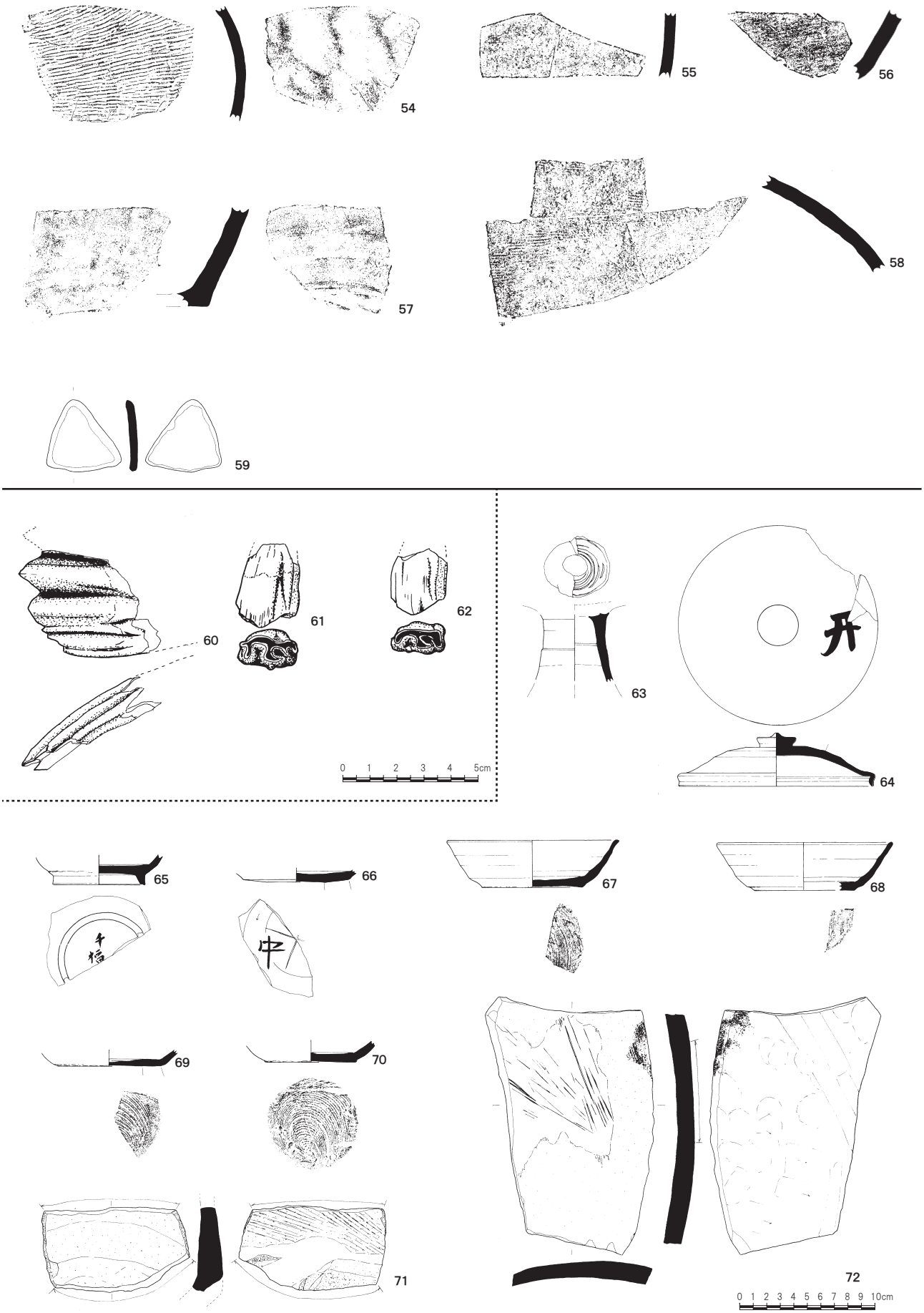
第 115 図　松山遺跡第 12 次井戸平面図・断面模式図 (1/60)



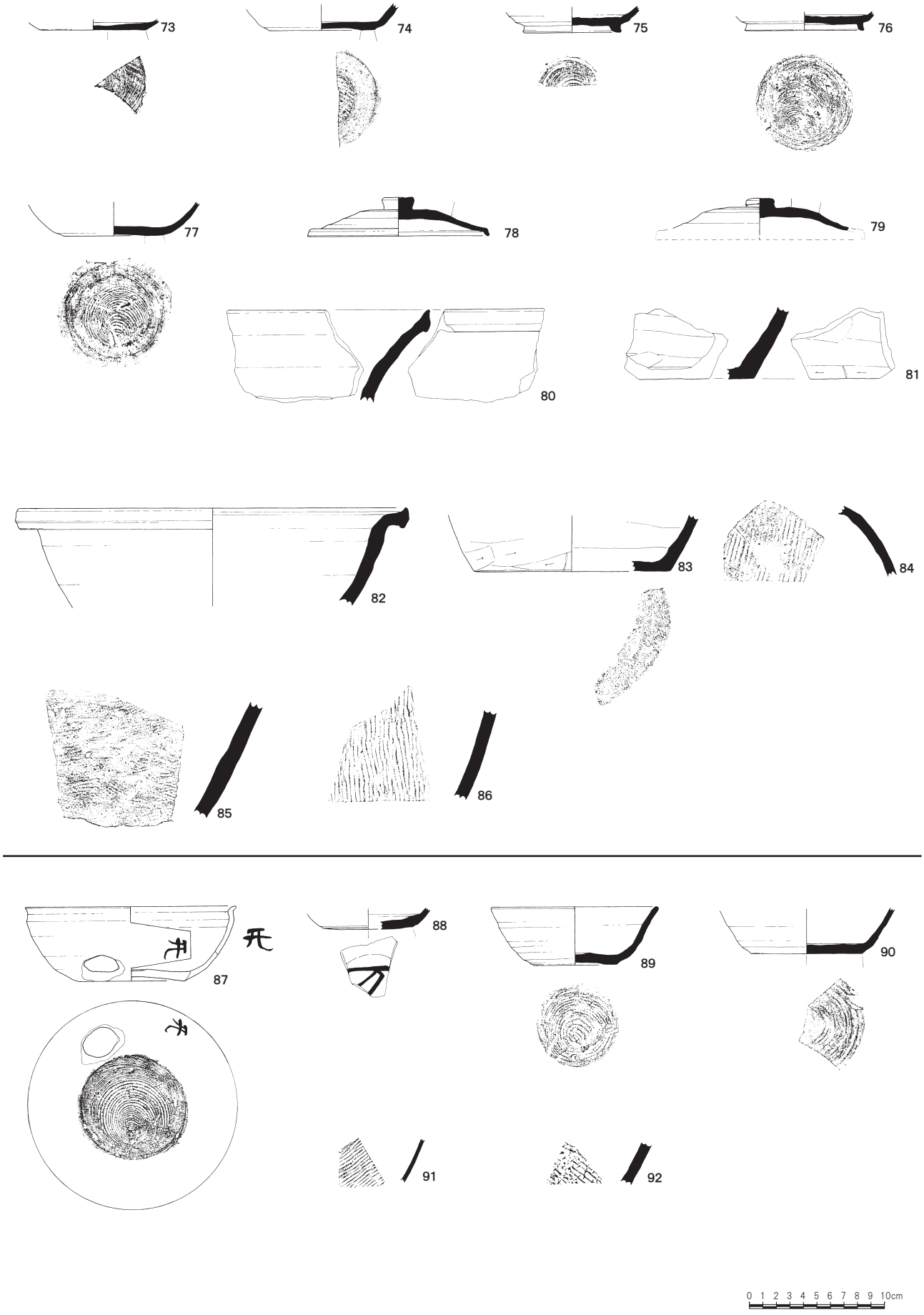
第 116 図　松山遺跡第 12 次出土遺物① (1/4)



第 117 図　松山遺跡第 12 次出土遺物② (1/4)



第 118 図　松山遺跡第 12 次出土遺物③ (1/4・1/2)



第 119 図　松山遺跡第 12 次出土遺物④ (1/4)

第 43 表　松山遺跡第 12 次出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	出土位置	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
1	井戸 1	覆土	須恵器坏	13.0	―	3.5	体部片、轆轤使用、胎土色調上半青灰色・下半橙色、胎土に海綿骨針含む、南比企窯産、内外面使用による摩耗	8 世紀後半
2			須恵器坏・墨書	―	6.8	(1.6)	底部片、轆轤使用、右回転、底部回転糸切離し後周辺部回転ヘラケズリ、底部に「出？」墨書、焼成良好、胎土色調象牙色、東金子窯産	8 世紀後半
3			須恵器坏・墨書？	16.8	7.0	2.9	轆轤使用、底部回転糸切離し痕を残す、胎土橙色、東金子窯産カ、体部外面に墨書「大」カ、口縁部内側使用による摩耗	8 世紀後半
4			須恵器坏	―	6.8	(1.4)	底部片、轆轤使用、右回転、底部糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、胎土色調灰青色・黄土色、東金子窯産	8 世紀後半
5			須恵器坏	―	7.1	(0.9)	底部片、轆轤使用、右回転、底部回転糸切離し後周辺部回転ヘラケズリ、胎土色調灰青色、東金子窯産	8 世紀後半
6			須恵器坏	12.0	7.3	3.4	轆轤使用、右回転、底部回転糸切離し痕を残す、胎土色調灰青色・丁子色、東金子窯産、口縁部の一部に煤付着、口縁部内側使用による摩耗	8 世紀後半
7			須恵器坏	―	7.2	(1.8)	底部片、轆轤使用、右回転、底部糸切離し痕を残す、焼成良好、胎土色調灰青色、東金子窯産	8 世紀後半
8			須恵器高台付坏	―	6.0	(1.5)	底部片、轆轤使用、底部回転糸切離し→周辺部回転ヘラケズリ→高台貼付	8 世紀後半
9			須恵器蓋	―	―	(1.5)	摘部片、轆轤使用、胎土色調暗灰色・丁子色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
10			須恵器蓋	14.0	―	(1.5)	口縁部片、轆轤使用、焼成良好、胎土色調灰青色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
11			須恵器甕転用砥石	7.6	6.4	0.9	外面平行叩き、内面当具痕の甕の胴部片を転用、短辺がよく使われている	8 世紀後半
12		中層	須恵器碗	15.2	8.0	4.9	轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、器面暗灰色・胎土丁子色、内面使用による摩耗	8 世紀後半
13			須恵器坏	―	8.8	(1.8)	底部片、轆轤使用、右回転、底部回転糸切離し→周辺部回転ヘラケズリ→高台貼付、焼成良好、東金子窯産	8 世紀後半
14			須恵器坏	11.6	7.0	4.6	轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、焼成良好、器面灰青色、東金子窯産、口縁部内面使用による摩耗	8 世紀後半
15			須恵器坏	12.0	7.0	3.4	轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、焼成良好、胎土灰青色、東金子窯産	8 世紀後半
16			須恵器坏	―	8.8	(0.8)	底部片、轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、胎土色調灰色・丁子色、内外綿使用による摩耗	8 世紀後半
17			須恵器坏	―	7.0	(1.0)	底部片、轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、爪先技法、焼成良好、胎土色調灰青色、東金子窯産	8 世紀後半
18			須恵器坏	―	7.0	(1.1)	底部片、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、胎土色調灰青色、東金子窯産	8 世紀後半
19			須恵器坏・墨書	―	7.2	(1.8)	轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、焼成良好、底部に「當□」墨書、器面色調灰色・胎土丁子色、東金子窯産	8 世紀後半
20			須恵器坏	―	8.3	(2.2)	轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、爪秋技法、胎土色調灰色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
21			須恵器坏	―	7.0	(0.9)	轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、爪先技法、胎土色調灰色、胎土に海綿骨針を含む、底面に墨書カ	8 世紀後半
22			須恵器坏・墨書	―	(9.0)	(0.9)	轆轤使用、右回転、底部回転糸切離し後周辺部回転ヘラケズリ、底部に「万」墨書、焼成不良、胎土色調、生成色、東金子窯産	8 世紀後半

図版番号	出土遺構	出土位置	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
23	井戸 1	中層	須恵器坏	―	8.0	(2.0)	轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部手持ちヘラケズリ、爪先技法、焼成良好、胎土色調灰色、東金子窯産	8 世紀後半
24			須恵器坏	―	8.0	(0.7)	轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、焼成不良、胎土色調砂色、東金子窯産	8 世紀後半
25			須恵器坏	―	7.2	(2.0)	轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部手持ちヘラケズリ、爪先技法風、焼成良好、胎土色調灰色、東金子窯産	8 世紀後半
26			須恵器坏	―	8.2	(1.6)	轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、焼成不良、胎土色調あんず色、東金子窯産	8 世紀後半
27			須恵器坏	―	8.0	(0.7)	底部片、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、焼成不良、胎土色調明灰色、東金子窯産	8 世紀後半
28			須恵器坏	―	9.4	(1.2)	底部片、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
29			須恵器坏	―	6.8	(0.8)	底部片、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、爪先技法、焼成良好、胎土色調丁子色、東金子窯産、器面摩耗	8 世紀後半
30			須恵器坏	―	6.4	(1.0)	底部片、轆轤使用、右回転、底部回転糸切離し痕を残す、胎土色調明灰色、東金子窯産	8 世紀後半
31			須恵器坏	―	7.0	(1.0)	底部片、底部回転糸切離しの後全面回転ヘラケズリ、焼成良好、胎土色調明灰色、東金子窯産	8 世紀後半
32			須恵器坏	―	7.8	(0.8)	底部片、全面回転ヘラケズリ、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
33			須恵器坏	―	7.0	1.7	底部片、轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、焼成良好、胎土色調灰色、東金子窯産	8 世紀後半
34			須恵器坏	12.8	7.5	3.9	轆轤使用、底部回転ヘラケズリ、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
35			須恵器坏	8.0	―	(2.0)	轆轤使用、底部は全面回転ヘラケズリカ、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
36			須恵器坏	―	7.6	(2.6)	轆轤使用、底部回転糸切離しの後周辺部手持ちヘラケズリ、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
37			須恵器坏	12.0	6.4	(3.5)	轆轤使用、胎土色調灰色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
38			須恵器坏	12.2	―	(2.8)	轆轤使用、胎土色調灰色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
39			須恵器高台付坏	―	8.4	(1.2)	轆轤使用、底部開園ヘラケズリの後薄い高台貼付、爪先技法、胎土色調砂色、東金子窯産	8 世紀後半
40			須恵器蓋	15.6	―	3.8	轆轤使用、外面中央回転ヘラケズリの後摘み貼付、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産、内面は使用による摩耗	8 世紀後半
41			須恵器蓋	12.0	―	(2.0)	轆轤使用、外面中央回転ヘラケズリの後摘み貼付、焼成良好、胎土色調灰色、東金子窯産	8 世紀後半
42			須恵器 銅椀蓋模倣蓋	20.4	―	(2.6)	轆轤使用、外面中央回転ヘラケズリ、焼成良好、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
43			須恵器蓋	12.2	―	(1.8)	轆轤使用、外面中央回転ヘラケズリ、焼成良好、器面色調ブルーフォグ、東金子窯産	8 世紀後半
44			須恵器蓋	11.0	―	(1.6)	轆轤使用、焼成良好、器面色調ブルーフォグ、東金子窯産	8 世紀後半
45			須恵器坏又は皿	―	6.6	(1.0)	轆轤使用、焼成不良・土師質、底部回転糸切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、胎土色調柑子色、東金子窯産カ	8 世紀後半
46			須恵器高台付坏	―	8.0	(2.5)	轆轤使用、爪先技法、付高台、焼成良好、胎土色調ブルーフォグ、見込み・畳付使用による摩耗	8 世紀後半

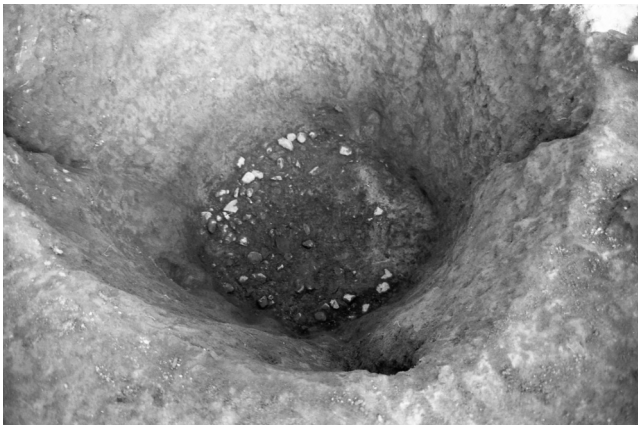
図版番号	出土遺構	出土位置	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
47	井戸 1	中層	須恵器 銅椀模倣椀	19.2	―	(2.5)	轆轤使用、薄作り、口縁部がシャープに「く」の字状に屈折、胎土色調モスグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
48			須恵器甕	―	―	―	肩部片、外面平行叩、内面当具痕、焼成良好、外面降灰、胎土色調パールグレイ、東金子窯産	8 世紀後半
49			須恵器甕	―	―	―	胴部片、外面平行叩、内面当具痕、焼成良好、器面色調鉛色、胎土色調丁子色、東金子窯産	8 世紀後半
50			須恵器甕	―	―	―	肩部片、外面平行叩、内面当具痕、焼成良好、外面降灰、器面色調鉛色、胎土色調丁子色、東金子窯産	8 世紀後半
51			須恵器甕	―	―	―	頸・肩部片、頸内面、肩部外面に降灰、器面色調ブルーフォグ、東金子窯産	8 世紀後半
52			須恵器甕	―	―	―	胴部片、外面平行叩、内面当具痕、焼成良好、胎土色調鼠色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
53			須恵器甕	―	―	―	胴部片、外面平行叩、内面当具痕、焼成良好、器面色調鉛色、胎土色調丁子色、東金子窯産	8 世紀後半
54			須恵器甕	―	―	―	胴部片、外面平行叩、内面当具痕、胎土色調モスグレイ、末野窯産	8 世紀後半
55			須恵器甕	―	―	―	胴部片、叩目ナデ調整、当具痕ナデ消し、器面色調モスグレイ、胎土色調テラコッタ	8 世紀後半
56			須恵器甕	―	―	―	頸部片、焼成不良、胎土色調砂色、南比企窯産カ	8 世紀後半
57			須恵器甕	―	―	―	腰部片、粘土接合痕残す、焼成良好、胎土色調モスグレイ、東金子窯産	8 世紀後半
58			須恵器甕	―	―	―	胴部片、外面平行叩、内面当具痕、胎土色調モスグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
59			須恵器甕転用砥石	5.5	5.4	0.6	須恵器甕胴部片転用、割口各面摩耗、胎土色調樺色、胎土に海綿骨針を含む	8 世紀後半
60		石敷直上	馬歯	―	―	―	切歯	8 世紀後半
61			馬歯	―	―	―	臼歯	8 世紀後半
62			馬歯	―	―	―	臼歯	8 世紀後半
63			須恵器高坏	―	―	(5.1)	轆轤使用、高坏・盤接合部に条線状のキザミ、胎土色調パールグレイ	8 世紀後半
64			須恵器蓋・墨書	14.4	―	(4.0)	轆轤使用、宝珠摘、外面中央回転ヘラケズリ、外面に「开（井）」墨書、胎土色調砂色、東金子窯産	8 世紀後半
65			須恵器高台付坏・墨書	―	6.8	(2.3)	轆轤使用、爪先技法、底部糸切離しの後回転ヘラケズリ付高台、底部に「千福」墨書、胎土色調バトルシップグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
66			須恵器坏・墨書	―	7.8	(0.9)	轆轤使用、底部片、轆轤使用、底部糸切離しの周縁部回転ヘラケズリ、底部に「×」ヘラガキ、「中」墨書、胎土色調砂色、	8 世紀後半
67			須恵器坏	12.8	7.4	3.5	底部片、轆轤使用、右回転、底部回転糸切離し、爪先技法、底部に墨書あるが判読不能、胎土色調スカイグレイ、東金子窯産	9 世紀前半
68			須恵器坏	12.4	6.3	4.3	轆轤使用、底部回転糸切離し後周辺部手持ちヘラケズリ、胎土色調パールグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
69			須恵器坏	―	7.6	(1.3)	轆轤使用、底部回転糸切離し後周縁部回転ヘラケズリ、爪先技法、焼成不良、胎土色調生成色、東金子窯産	8 世紀後半
70			須恵器坏・墨書	―	6.7	(1.6)	轆轤使用、右回転、底部片、爪先技法、回転糸切離し痕を残す、底部に墨書あり（解読不明）、東金子窯産、内面使用痕	8 世紀後半
71			須恵器転用砥石	10.5	7.1	1.8	短頸壷カ、腰部片、高台欠失、外面平行叩、外面灰釉、内底面降灰、胎土均質、胎土色調灰色、割口部分的に摩耗、猿投産	8 世紀後半
72			須恵器甕転用砥石	18.0	11.5	1.3	胴部片、外面平行叩、内面当具痕、外面削痕明瞭、一部に煤付着、胎土色調砂色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半

図版番号	出土遺構	出土位置	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
73	井戸 1	石敷直上	須恵器坏	―	7.6	(0.8)	轆轤使用、底部片、底部回転糸切離しの後全面回転ヘラケズリ、胎土色調灰汁色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
74			須恵器坏	―	7.6	(2.0)	轆轤使用、底部片、底部回転糸切離しの後周縁部回転ヘラケズリ、胎土色調葉灰赤、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
75			須恵器高台付坏	―	7.2	(2.0)	轆轤使用、爪先技法、底部糸切離しの後付高台、胎土色調鼠色、胎土に海綿根針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
76			須恵器高台付坏	―	8.8	(1.4)	轆轤使用、右回転、底部糸切離しの後周縁部回転ヘラケズリ付高台、胎土色調鉛色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
77			須恵器埦	―	8.5	(2.5)	轆轤使用、右回転、底部糸切離しの後周縁部回転ヘラケズリ、底部に「×」ヘラガキ、胎土色調銀鼠、見込みやや摩耗、炭付着、転用硯の可能性あり	8 世紀後半
78			須恵器蓋	13.4	―	2.9	轆轤使用、外面中央回転ヘラケズリ、宝珠摘、胎土色調銀鼠、内面やや摩耗、南比企窯産カ	8 世紀後半
79			須恵器蓋	―	―	(2.3)	轆轤使用、外面中央回転ヘアケズリ、宝珠摘、摘上面・内面中央摩耗、胎土色調砂色、東金子窯産	8 世紀後半
80			須恵器甕	―	―	―	口縁部片、胎土色調バトルシップグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
81			須恵器甕	―	―	―	腰部片、胎土色調鼠色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
82			須恵器鉢	29,2	―	(7.4)	口縁部片、胎土色調スカイグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
83			須恵器鉢？	―	14.8	(4.2)	腰部・底部片、破片から底部が楕円形を呈する可能あり、腰部横位のヘラケズリ、胎土色調薄墨色、胎土に海綿本針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
84			須恵器甕	―	―	―	肩部片、外面平行叩き、内面ナデ調整、肩部に灰釉、外面色調鼠色、胎土色調砂色、胎土均質、猿投産カ	8 世紀後半
85			須恵器甕	―	―	―	胴部片、外面弱い平行叩き、内面ナデ調整、胎土色調パールグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
86			須恵器甕	―	―	―	肩部片、外面平行叩き、内面ナデ調整、外面色調鼠色、胎土色調砂色、胎土均質、東金子窯産	8 世紀後半
87		石敷直下	須恵器埦・墨書	15.6	7.9	5.5	轆轤使用、口縁部が「く」状に折れ口唇部が尖る、底部糸切離し後周辺部回転ヘラケズリ、焼成良好、胎土色調灰色、腰部に丸く意図的に欠損、内面に使用による摩耗、胴部中程に横位に「开（井）」墨書、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	9 世紀前半
88			須恵器坏・墨書	―	6.6	(1.5)	轆轤使用、底部片、残存底部は手持ちヘラケズリ、英部に「万」墨書、胎土色調パールグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
89			須恵器坏	12,4	6.3	4.3	轆轤使用、右回転、底部回転糸切離し、焼成不良、内面火襷、胎土色調パールグレイ、使用による摩耗、鉄分付着、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	9 世紀前半
90			須恵器坏	―	8.3	(3.4)	轆轤使用、右回転、底部全面回転ヘラケズリ、胎土色調パールグレイ、使用による摩耗、外面腰部に焦げ茶色の付着物、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	8 世紀後半
91			須恵器甕	―	―	―	肩部片、外面平行叩き、内面ナデ調整、器面色調モスグレイ、胎土色調空五倍子色、胎土均質、東金子窯産	8 世紀後半
92			須恵器甕	―	―	―	肩部片、外面平行叩き、内面ナデ調整、外面色調鼠色、胎土色調砂色、胎土均質、東金子窯産	8 世紀後半

松山遺跡第 12 次井戸

松山遺跡第 12 次井戸

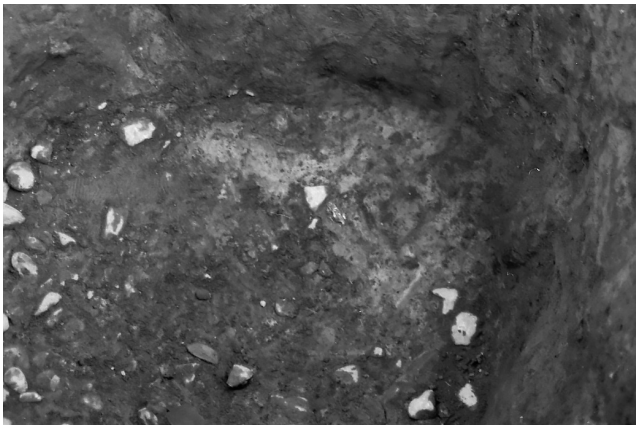
松山遺跡第 12 次井戸



松山遺跡第 12 次井戸

松山遺跡第 12 次井戸

松山遺跡第 12 次井戸



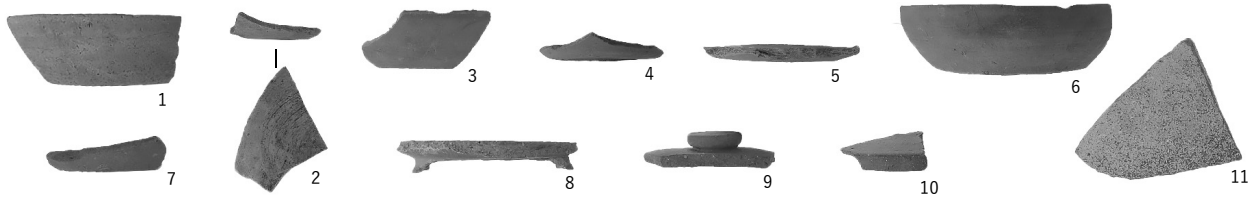
松山遺跡第 12 次遺物出土状況

松山遺跡第 12 次馬歯出土状況

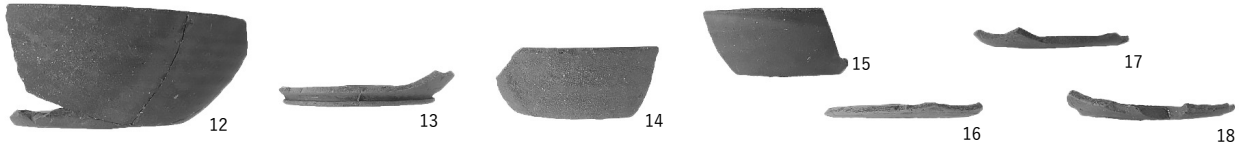
松山遺跡第 12 次調査風景①

松山遺跡第 12 次調査風景②

井戸 覆土・一括

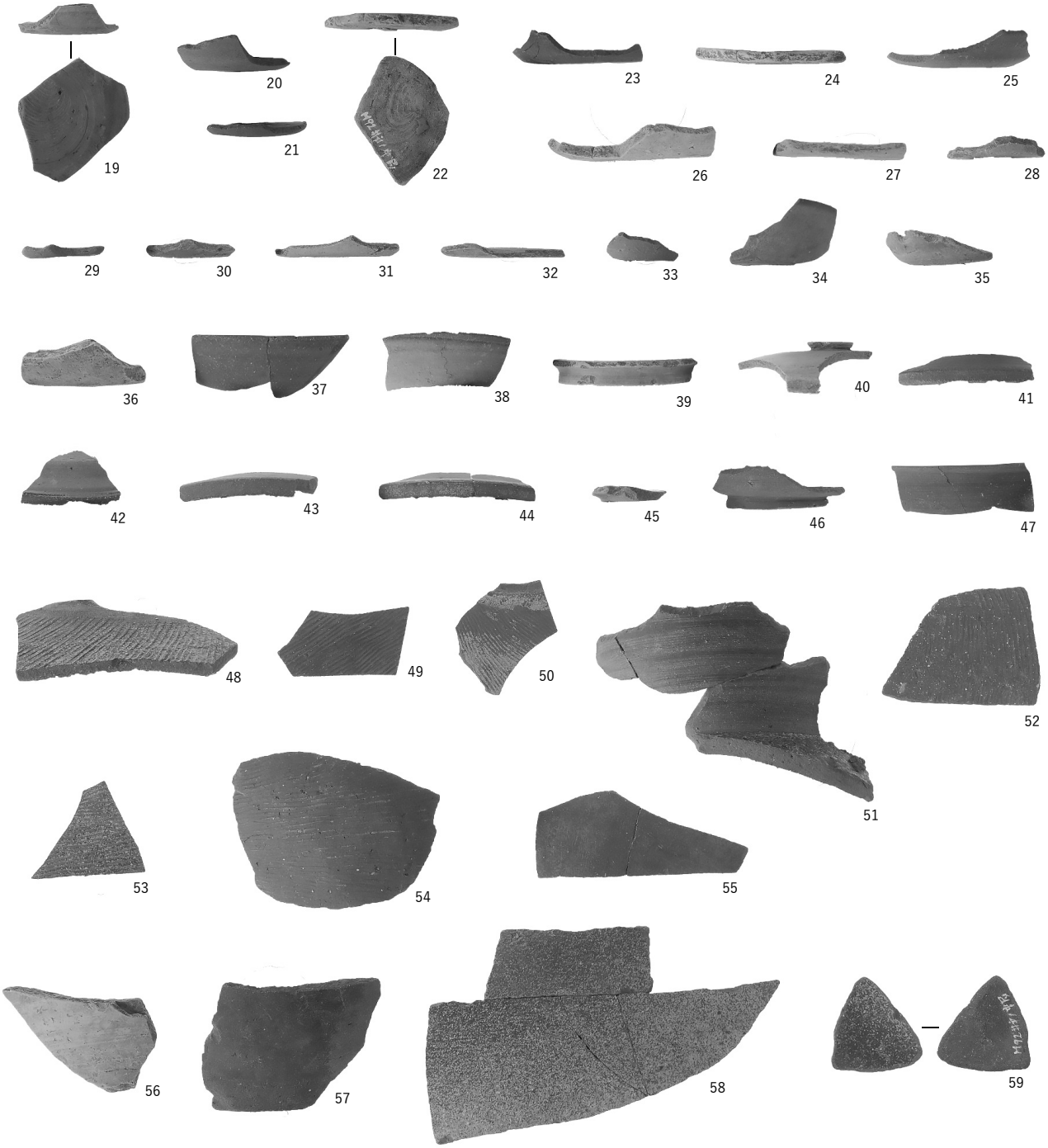


井戸 中層

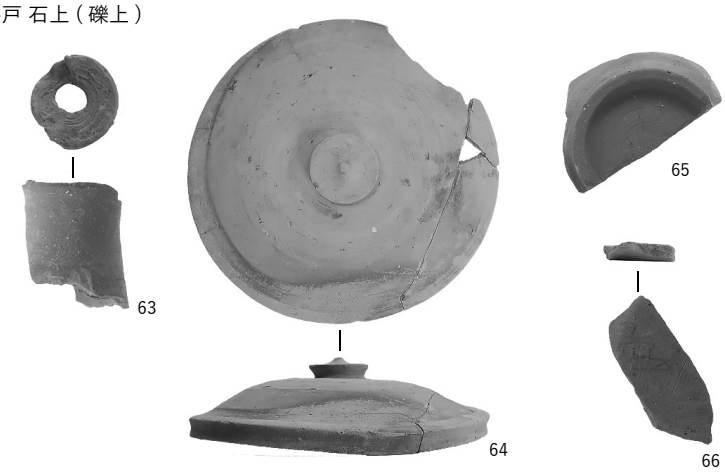


松山遺跡第 12 次出土遺物①

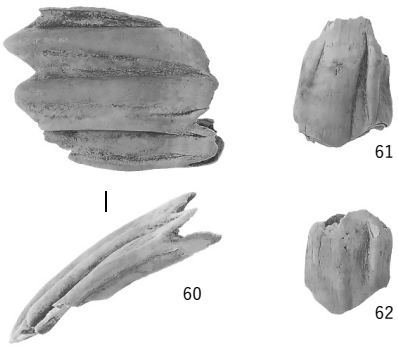
井戸 中層



井戸 石上（礫上）

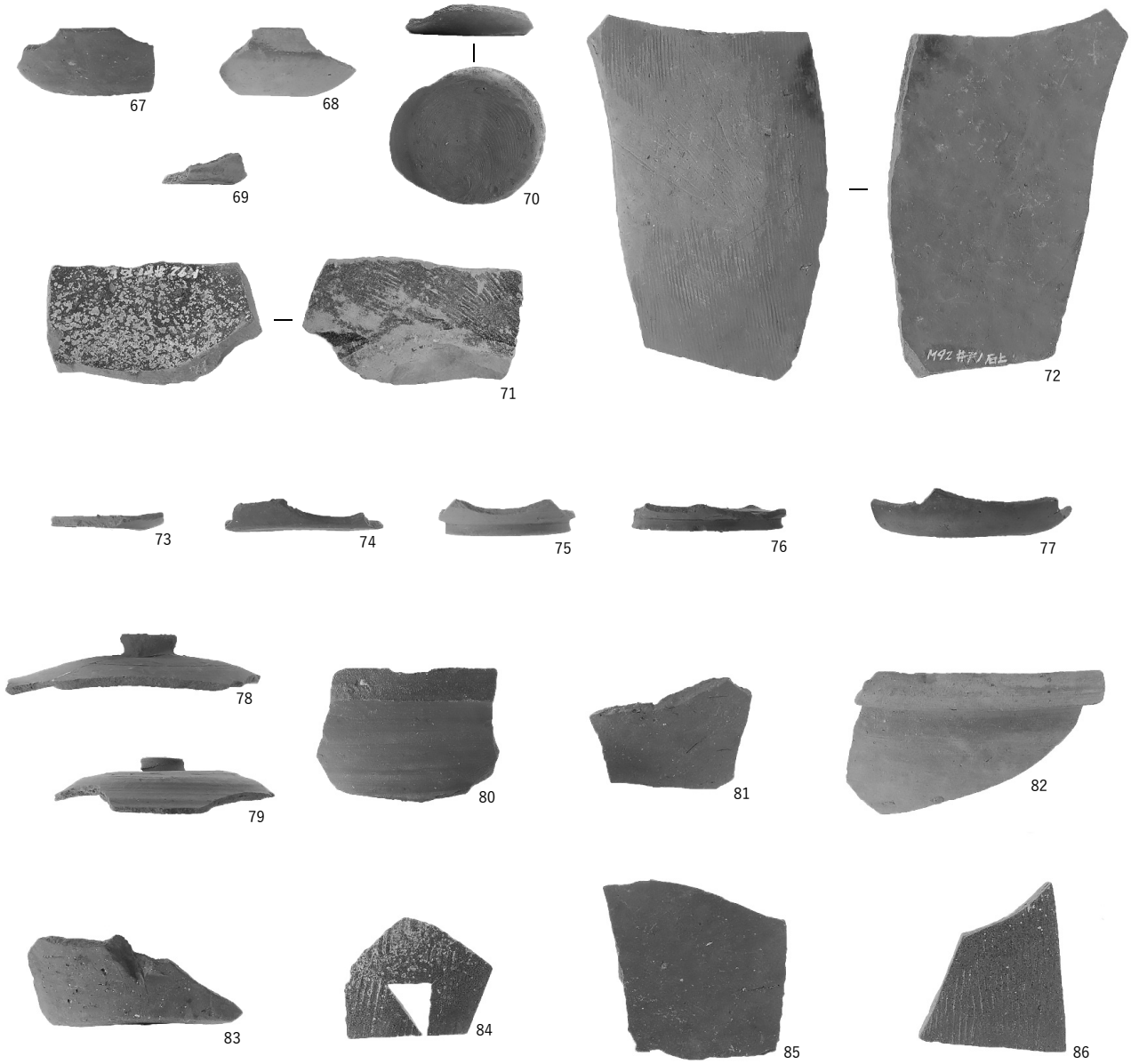


馬歯

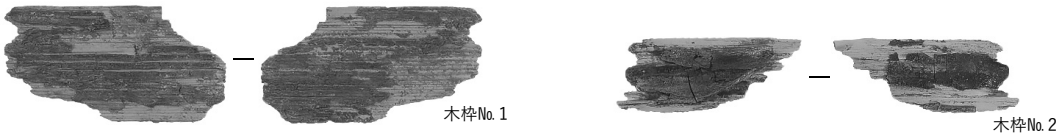


松山遺跡第 12 次出土遺物②

井戸 石上（礫上）



井戸 石下（礫下）



松山遺跡第 12 次出土遺物③